

「明るい社会に生きるために」

府中市立第一中学校
第1学年 本田 芽具実

「明るい社会に生きるために」

府中市立第一中学校 一年 本田芽具実

「明るい社会とはどのような社会なのでしょう。また、社会を明るくするために私達はどのようなことをすればよいのでしょうか。」と今までの私なら、「明るい社会とはみんなが笑っている社会やみんなが幸せな社会と答えていたと思います。確かに、笑うことや幸せなこと、それも大切だと思います。しかし、中学一年生になった私には笑顔や幸せの他にも大切だと思うこと、大切にしたいことがあります。

私は今年の夏休みの始まりを東京で迎えました。小学生の頃に書いた作文の表彰式に行っていました。表彰式の行き帰りに東京の町を歩いていた時、とても驚き、胸が苦しくなるものを目にしました。それは、路上生活を送っている人達です。私達が住む府中市でも少し街になった広島市でも、そういう人達を見たことがなかった。なので、見た時に本当に

驚きました。テレビの中でしか見たことかなく、実際に自分の目の前にそのような世界が広がっていると思うと、受け入れがたい悲しい現実でした。私はこのような人達を見るととても辛くなります。汚れた服を着て、お世辞にも快適とは言えない所に住む人の前を、きれいな服を着て楽しそうに話す私達が通っても良いのかミと。路上生活を送るようになってたのが自分のせいだったとしても、私はその人達をどうにかして助けてあげたい、支えになりたいと思いました。向こうからしてみれば、何も知らない人に何が分かるんだい。「何を分かたかのように言っているのかい。」そう思われるかもしれませんが、それでも私はお金がなくて困っている人を助けてあげたいのです。

家に帰って何日か経ったある日、私はテレビでこんなニュースを見ました。路上生活を送っていた人が何者かに鉄パイプで頭をなぐられ、亡くなった状態で見つかったという二

ユースです。今までの私なら数多く発信されて
 いるニユースの一つだと思って、聞き流し
 ていたでしょう。しかし、東京に行って路上
 生活を送る人をたくさん見た私は、そのニユ
 ースを聞き流しませんでした。いや、聞き流
 せませんでした。この世の中には、こんな
 ひどいことをする人がいる、辛い思いをしな
 から路上生活を送っている人がまたひどい目
 に合っていると思うと、悲しくなりました。

社会を明るくするため、
 社会を築

いて行くためには、まずこの人達を幸せにし
 てあげるといいと思います。私は明るい社会
 とは、みんなの居場所があり、みんなが必要
 とされる社会のことだと思っています。幸せ
 だということをやより具体的に言えば、誰かに
 必要とされることだと思っからです。自分を
 たよってくれる人がいること、自分を大切に
 思ってくれる誰かがいることは本当に嬉しい
 ものです。自分の存在で誰かを助けられたり、
 笑わせることが出来たりすると、自分自身の

生きている価値を知ります。私は小学六年生
 のころ、児童会役員をやっていました。その
 時に、自分達で考えたイベントでみんなが笑
 っていたらとても嬉しかっただです。私を児童
 会役員と認められて、悩んでいることを話
 してくれると本当に嬉しかっただです。だから
 幸せとは人に必要とされることだと思います。
 社会を明るくするためには、みんなが必要と
 される環境をつくるのが大切だと思います。
 ます。

人間にとっての幸せとは、笑顔であるとい
 うこと。笑顔になるためには、お互いに支え
 合い、認め合い、分かち合うことが大切。社
 会を明るくするためには、みんなの居場所が
 あり、必要とされる環境をつくることが重要
 になってきます。みんなが幸せだといえる世
 の中をつくるなんて、そんなに簡単なことで
 はないけれど、東京でみたような辛い思いを
 している人達が少しでも減るのなら、地道な
 ことからでも支えてあげたいと思います。ま

ずは身近なところから。コンビニの募金箱に募金をしたり、エコキャップを集めて、ワケチンに変えてもらったり。社会を明るくするためにやる活動は身近なところに転がっています。最初は、ボランティア活動を探していくところから始めればよいと思います。

一つ一つのことを一人一人がやっつけていけば今すぐにミとはいかなくても、いつかはみんなの居場所があって、誰もが必要とされる社会が来るのではないでしょう。自分の一つ一つの過ちが周りの人を苦しめる、反対に自分の一つの協力が周りの人を笑顔にする。そう思えば自分の一つ一つの言動が責任感をもつてできるはず。――

社会を明るくするために。一人一人がお互いを認め合い、分かち合うことが重要になってきます。自分の生きる意味や価値をしっかりと理解し、自らの必要性を感じなければいけません。この世に生まれた尊い命、一つも無駄にしないために。

〈指導者の言葉〉

本校では平成 30 年度から実施される『課題発見・解決学習』に向けて、生徒同士が主体的に学び合う授業実践を積み重ねています。国語科においては、計画的に書く活動を実施するとともに、毎時間の振り返りを書かせるようにしています。自分の意見や思いを書く際には、読み手を意識させ、根拠を明確にして書くことや、自分の生活体験と結び付けながら書くことなどを指導してきました。

本作品は、東京で路上生活者を目にした体験をきっかけに、現代社会の問題について再度考え直し、よりよい社会にするために、自分には何ができるのかについて述べた意見文です。自分の実体験から感じたことを素直に表現されているので、書き手の思いが読み手にストレートに伝わってきます。また、現代社会の問題を他人事では終わらせるのではなく、社会や人の命の価値について思いを巡らせ、自分自身ができることを模索していることが文章中から読み取れます。「社会を明るくするために、みんなが必要とされる環境をつくること」の重要性を読み手に実感させてくれる文章です。